

社会福祉において障害者の性を支援するということ

○ 淑徳大学大学院社会福祉学専攻博士後期課程 武子 愛 (7734)

キーワード：障害者、性、文献研究

1. 研究目的

社会福祉において障害者の性は長い間タブーとされてきた。知的障害者に関して言えば、背景に「優生学的思想」と、「無性の存在」としての差別的人間観があるとされる(河東田1999)。また、生活上の変化が生じる機会として結婚や出産があり、支援のあり方も変化する。結果として知的障害者は恋愛の入口にも立てない状況にある。

社会福祉は公的な資金を基礎として行う事業である。公的な資金を使う以上、支援する内容に誰もが納得する理論的背景が必要と考える。障害者の性の研究枠組と検討課題を社会福祉の領域で整理した旭(1993)は、検討課題として「専門職としての援助・介護の範囲の問題」を挙げている。専門職としての援助項目に位置づけるための「社会福祉固有の領域がどこにあるか」を検討する必要性を指摘した問題提起である。よって本研究では「社会福祉固有の領域」について、社会福祉の基本的な理論を用いて検討してみたい。

2. 研究の視点および方法

本研究は文献研究である。社会福祉の対象となるかを岡村重夫「社会生活上の要求」から、その価値をメイヤロフ『ケアの本質』及びフロム『愛するということ』から検討する。

3. 倫理的配慮

本研究は日本社会福祉学会研究倫理指針に基づいて行った。

4. 研究結果

1)性を支援することは社会福祉の対象か

岡村(1979)は、7つの「社会生活上の要求」の一つに「家族的安定」を挙げるが、その際マズローの基本的要求である「所属と愛情のニード」を引用する。岡村理論における「家族」は性別役割分業を前提とした家族の在り方であり現在の社会とは差異があるという指摘(野々山2012)もあるが、今も社会福祉の基本とされる。そのマズローの「所属と愛情の欲求」の対象には「妻、子ども」の他に「恋人」が含まれる。とすれば福祉対象者が恋人や家族を持つことが岡村の「社会生活上の要求」の一つであると言える。なおマズローは「愛とは、性と同義語ではない」とし、生理的欲求に性的欲求を含まないことを示唆する。性的な関係のみでは所属と愛情の要求が満たされないということである。よって岡村理論で考えれば、社会福祉が問題とする「生活上の困難」は、愛情関係にない性的欲求については支援の対象でないといえる。そしてマズローは「愛の欲求は、与える愛と受ける愛の

両方を含むという事実を忘れてはならない」とする。これは愛し合える関係と言い換えることができる。つまり、岡村理論における社会福祉が対象とする「生活上の困難」の一つには愛し合える関係が構築できないことがあり、社会福祉における性の支援とは愛し合える関係の構築と言えよう。その上で、愛し合える関係が円滑に続くために性的な関係が必要な場合、出産をすることを望む場合は、生殖の性に関する支援が必要と言えるだろう。

2)社会福祉において性を支援する意味

フロム(1991)は、『愛するということ』の中で、愛は自分の生命を与えることとした上で、「自分の生命を与えることによって、人は他人を豊かにし、自分自身の生命感を高めることによって、他人の生命感を高める。(中略) 与えるということは、他人をも与える者にするということであり、たがいに相手のなかに芽生えさせたものから得る喜びを分かち合う」とする。一方、メイヤロフ(2002)は、『ケアの本質』の中で、「私が相手をケアすることは、その人が私をケアすることの活性化を助けるのである。同様に、自分に対する相手のケアが、その相手のために行うこちらのケアの活性化に役立っているし、相手のためにケアする自分を”強くする”のである」としている。この2つの概念は似通っている。ほかにも他者への理解や、他人の要求に応じられる用意や「勇気」が必要であること、依存関係はケアでも愛でもないことなど、共通点が多い。よって、メイヤロフの「ケア」はフロムの「愛」であり、ケアすることが愛であると言っても良いであろう。また、メイヤロフの「ケア」は生きることである。つまり愛し合える関係の構築を支援することは、生きingことを支援することといえ、それが、社会福祉において性を支援する意味といえるのではないか。

5. 考察

ではなぜ「性」と聞いて、愛し合える関係の構築より先に性行為について考えてしまうのか。理由は、援者側に避妊を含む性行為に関することを支援することへのためらいがあることであると推測する。よって愛し合える関係を築くための支援も併せてしなくなる。しかし性行為が愛し合える関係において必要不可欠でもなく、身体接触はカップルによってそれぞれである。また性的な指向が同性である人もいる。障害のある人それぞれの性の在り方に寄り添い、幸せな人生の一助となる性の支援を行うことが必要であると考えられる。

参考文献

- ・河東田博(1999)「性の権利と性をめぐる諸問題」松友了『知的障害者の人権』明石書店
- ・旭洋一郎(1993)「障害者福祉とセクシュアリティ 問題の構造とケアの課題」『社会福祉学』34(2),129-145
- ・岡村重夫(1983)『社会福祉原論』全国社会福祉協議会
- ・A.H.マズロー著小口忠彦訳(1987)『人間性の心理学 モチベーションとパーソナリティ』産業能率大学出版部
- ・ミルトン・メイヤロフ著田村真・向野宣之訳(2002)『ケアの本質—生きることの意味』ゆみる出版
- ・エーリッヒ・フロム著鈴木晶訳(1991)『愛するということ』紀伊国屋書店
- ・野々山久也(2012)「岡村理論における家族福祉論」右田紀久恵・白澤政和監修、松本英孝、永岡正己、奈倉道隆編著『岡村理論の継承と発展第1巻社会福祉原理論』ミネルヴァ書房